

# 研究対象者募集のご案内


[内容に関するお問い合わせ先・書類宛先]

〒181-8612 東京都三鷹市下連雀 5-4-1

TEL 0422-47-8000 (内線 2511)

研究責任者 杏林大学保健学部リハビリテーション学科 柴田 茂貴

現在、柴田研究室では、「Valsalva Maneuver が脳循環動態に与える影響：頭蓋内・頭蓋外脳血流の比較検討」というテーマについて、以下の実験について研究対象者を募集しています。

研究課題名	Valsalva Maneuver が脳循環動態に与える影響：頭蓋内・頭蓋外脳血流の比較検討
対象者の概要	研究対象者は 18 歳以上 60 歳未満の健常成人です。除外基準は、脳血管疾患・心血管疾患・呼吸器疾患・代謝性疾患・神経系疾患の既往を有する者、高血圧症を有する者、重度の肥満の者 (BMI >30)、心血行動態および脳血行動態に影響を与える薬剤を服用している者、喫煙習慣のある者、認知機能が低下しており、研究中の指示に従えない可能性がある者、妊娠中または妊娠の可能性のある者です。
実験の概要	本研究は、「いきみ」を人工的に生じるバルサルバ法 (Valsalva Maneuver : VM) が脳循環動態に与える影響を観察的に検証するものです。私たちが「いきむ」と、胸腔内圧が高まり心臓や脳の血流に大きな変化が起こり、時に失神の原因となります。これまで VM 中の脳動脈の血流速度は研究されていますが、実際の血流量や他の血管の反応は十分に分かっていません。本研究では、健康な成人を対象に、VM を行い、その際の頸部血管や脳血流量の変化を超音波で測定し、仕組みを明らかにします。実験は 2 日間行います。1 日目は練習日とし、VM の練習を行うとともに、機器の調整と健康状態の確認を行います。2 日目は、体調を確認後に、心拍数、動脈血圧、脳血流量のベースライン測定を行い、その後、VM を実施し心拍数、動脈血圧、脳血流量を連続的に測定します。この研究により、脳の血流調節の仕組みを明らかにし、将来的には失神の予防、診断に役立てることを目的としています。
実験時間	概ね 60 分×2 日 程度
実施期間	2026 年 1 月 6 日 ～ 2029 年 1 月 31 日
謝礼	あり ・ なし
申し込み方法	<p>■メールまたは QR コードによる応募をお願いいたします。</p> <p>① メールアドレス : <a href="mailto:shigekishibata@ks.kyorin-kyorin-u.ac.jp">shigekishibata@ks.kyorin-kyorin-u.ac.jp</a></p> <p>② メール本文へ以下をご記載ください：</p> <p>-----</p> <p>氏名：</p> <p>連絡先（メールアドレス）：</p> <p>希望する曜日・時間帯など：</p> <p>-----</p> <p>※メールでのご連絡または QR コードによる登録をいただきましたら、 折り返しこちらからご連絡をいたします。</p> 

## Valsalva Maneuverが脳循環動態に与える影響:頭蓋内・頭蓋外脳血流の比較検討

本研究は、「いきみ」を人工的に生じるバルサルバ法(Valsalva Maneuver:VM)が脳循環動態に与える影響を観察的に検証するものです。私たちが「いきむ」と、胸腔内圧が高まり心臓や脳の血流に大きな変化が起こり、時に失神の原因となります。これまでVM中の脳動脈の血流速度は研究されていますが、実際の血流量や他の血管の反応は十分に分かっていません。本研究では、健康な成人を対象に、VMを行い、その際の頸部血管や脳血流量の変化を超音波で測定し、仕組みを明らかにします。実験は2日間行います。1日目は練習日とし、VMの練習を行うとともに、機器の調整と健康状態の確認を行います。2日目は、体調を確認後に、心拍数、動脈血圧、脳血流量のベースライン測定を行い、その後、VMを実施し心拍数、動脈血圧、脳血流量を連続的に測定します。この研究により、脳の血流調節の仕組みを明らかにし、将来的には失神の予防、診断に役立てることを目的としています。

このフォームを送信する際に、お客様が、ご自身のお名前やメールアドレスなどの詳細情報を入力しない限り、その情報が自動的に取得されることはありません。

\* 必須

### 1. 参加希望者の氏名 \*

### 2. 参加希望者のメールアドレス \*

### 3. 希望する曜日、時間帯など \*

送信

パスワードを記載しないでください。 [不正使用を報告する](#)